

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1451 号	氏名	吉元 (原村) 智子
学位審査委員	主査 林田 直美 副査 中尾 一彦 副査 永安 武		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、脳死肝移植におけるグラフト使用可否の初期評価として、肝臓のインピーダンスの測定で脂肪肝の程度を予測できるかを探るため、ヒトの肝臓における肝脂肪率の評価にインピーダンス (bioelectrical impedance: BI) 法を用いることが可能であることを検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 肝切除を行われた非肝硬変患者の摘出標本より採取した検体を冷却し、フィッシュアナライザーを用いて肝 BI 値を様々な周波数で測定した後、トリグリセリドおよび総コレステロール含量を定量化した。また切片を作成し、顕微鏡を用いて 1 視野あたりの脂肪沈着面積を測定して脂肪沈着率を算出し、BI 値と脂肪沈着率との相関を統計学的に検討したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、100kHz での BI 測定値が最も肝脂肪率と相関し、肝脂肪率の予測式は $[0.054 \times (100\text{kHz での BI 値}) - 6.0832]$ となった。本研究は、ヒト肝臓の BI 値から肝脂肪率の予測式を求めることができた最初の研究であり、BI 法により肝脂肪率の程度を安全、迅速、かつ簡便に予測できることが示された。BI 法は脳死ドナー手術中にグラフト肝の適性を評価する際の新しい手法となる可能性があり、今後の肝移植への応用が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は肝移植研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			